

決算 審査報告

9月定例会において、平成20年度の一般、特別、企業会計の決算審査を行いました。一般会計の決算については、今定例会より一般会計決算特別委員会を設置し、議長を除く全議員で審査を行いました。

決算特別委員会

始動!!

これまで一般会計の決算審査は、担当課ごとに所管の常任委員会に分割付託し、審査を行っていました。行政運営の根幹である一般会計の重要性をかんがみ、監視機能の強化、論議の活発化を図るため、9月定例会より、議長を除く全議員で構成する「一般会計決算特別委員会」を試行的に設置し、その中で一般会計の決算審査を実施しました。

経常収支比率は前年度と変わらず94.7%と硬直した状況。歳出決算額は前年度と比較して、約6,000万円、0.2%の減少。歳入歳出差引額8億2,560万

平成20年度一般会計決算審査結果

< 歳入決算額 >	332億5,071万8,849円
< 歳出決算額 >	324億2,511万6,134円
< 差 引 額 >	8億2,560万2,715円
< 審査結果 >	認 定

概要

2,715万のうち、翌年度繰越事業の財源を差し引いた6億8,526万円が純繰越金となっています。

議会からの質疑・意見

(総務部) 物品管理一元化の効果及び改善点について質問。不正行為を防ぐ等の一定の効果はあったが、一括購入のため、各課での節減意識の低下が見られ、検討が必要との答弁がありました。

(企画部) 次世代政策研究事業の概要や成果、パス路線の今後の運行形態について質問。

(財政部) 市税の不納欠損処理額、滞納対策について質問。不納欠損処理額は市民税が3,600万円、固定資産税が5,100万円、都市計画税が900万円であり、滞納対策については不況の影響もあり困難な状況であるが、新設された長崎県地方税回収機構と協働しながら、滞納整理を行っていきたいとの答弁がありました。

(市民生活部) パスポートセンター事業の費用対効果、市民プロジェクト事業助成金の成果等について質問。

(福祉保健部) すこやか福祉基金の残額や今後の見通しについて質問すると共に、長期計画を立て、すこやか福祉基金を財源とする事業が継続していけるよう意見。

(農林水産部) 担い手対策事業、資源管理型漁業推進事業の成果検証を十分に行うよう意見。

(教育委員会) 教材等整備事業について、限られた教育予算の中、配分された予

算を有効に活用するよう意見。

(環境部) 生ゴミ処理機器購入費補助金の推移、環境学習推進事業の内容や対象者について質問。

今回は、試行的に全議員による特別委員会におい

て、一般会計の決算のみを審査しましたが、今回の試行結果を踏まえ、審査方法や審査対象をただちに検証し、より意義のある議会運営を目指してまいります。

そのほか、特別会計、企業会計の決算審査の結果、概要等は次ページの表のとおりです。



議会改革の一環により、9月定例会から新たに始動した一般会計決算特別委員会

特別会計、企業会計の決算審査結果(平成20年度)

(単位:円)

件 名	歳入決算額(収益)	結果	概要、議会からの質疑・意見
	歳出決算額(費用)		
国民健康保険事業特別会計 歳入歳出決算	8,189,439,363 8,382,921,962	認定	差引額は 1億9,348万2,599円で大幅な赤字収支。収納体制を強化するよう意見。
老人保健事業特別会計 歳入歳出決算	759,983,527 736,716,494	認定	後期高齢者医療制度の新設により、老人保健制度は廃止。特別会計は22年度まで設置。
後期高齢者医療事業特別会計 歳入歳出決算	698,235,052 694,460,502	認定	広域連合の負担割合等について質問。政権交代により来年度以降の動向は未定。
介護保険事業特別会計 歳入歳出決算 (保険事業勘定)	4,678,641,419 4,589,702,940	認定	通所介護・訪問リハの給付費増の理由や今後の見通し、シルバーパワーアップ事業の会員数の動向等について質問。
介護保険事業特別会計 歳入歳出決算 (介護サービス事業勘定)	50,680,052 50,680,052	認定	
病院事業決算	356,874,411 627,242,555	認定	
モーターボート競走事業決算	48,131,350,467 47,111,627,115	認定	本場での売上は依然として厳しいものの、電話投票や他場での売上が好調で10億1,972万3,352円の純利益を計上。一般会計への繰出金は4億8,000万円。
簡易水道事業特別会計 歳入歳出決算	286,263,863 284,913,613	認定	内部留保資金の内容などについて質問。簡易水道事業、農業集落排水事業、水道事業、工業用水道事業は、料金改定に伴う給水収益の増加などにより黒字決算。下水道事業は、純損失が生じているものの、料金改定等に伴い収益が増加したことにより、前年度に比べ大幅な経営改善となっている。
農業集落排水事業特別会計 歳入歳出決算	482,466,757 451,440,865	認定	
水道事業決算	1,818,170,214 1,730,532,277	認定	
工業用水道事業決算	243,629,664 205,895,829	認定	
下水道事業決算	2,327,979,256 2,338,450,967	認定	